

# 福岡県チームが整備技能日本一に輝く

## 第20回全日本自動車整備技能競技大会

全国53の自動車整備振興会から整備士106名が参加し、整備士日本一を目指し整備技能を競う第20回全日本自動車整備技能競技大会（大会会長：橋本一豊日整連会長）が10月10日、東京・江東区の東京ビッグサイトで開催された。

各整備振興会の会員事業所選りすぐりの整備士による整備技能が競われた結果、福岡県自動車整備振興会チーム（谷口修平選手：有限会社藤壺自動車工業、常岡兼次選手：西鉄エム・テック株式会社 福岡工場）が1,000点満点で970点を獲得して優勝した。

優勝チームには国土交通大臣賞、日整連会長賞の賞状と盾、及び優勝旗が贈られた。また副賞として日整連より自動車整備に関する海外視察旅行への派遣がプレゼントされた。

準優勝は岐阜県チーム（浅野道昭選手：可見自動車整備協業組合、丹羽慶一選手：可見自動車整備協業組合、得点951点）、第3位には島根県チーム（田中賢選手：有限会社島根自動車整備工場、小川和良選手：有限会社小川自動車、得点923点）が入った。

同大会は日本自動車整備振興会連合会が主催し、昭和52年の第1回大会から1年おきに開催されており、福岡県チームの優勝は第7回大会、第11回大会以来で、3回目。



優勝した福岡県振興会チームの常岡選手（左）と谷口選手

## 第20回 全日本自動車整備技能競技大会

会場には選手、大会役員、来賓、マスコミ各社の他に、各県振興会役員・支部や事業所の同僚、選手家族らの多数の応援グループが横断幕や旗、プラカードで盛んな声援で競技大会を盛り上げ、更に整備学校の学生、教員らが全日本大会出場選手の一流の整備技術を見学のために訪れる等、日整連調べで3,000名以上の来場者があった。

また、国土交通省の藤井直樹自動車局長も来賓として出席し、競技中の会場を丹念に視察し、各選手の作業状況を見守っていた。また、表彰式では優勝した福岡県チームに国土交通大臣賞の賞状とトロフィーを手渡した。同大会に自動車局長が来賓として出席するのは初めて。

競技時間は90分で、2人1組で行う実車競技（1年定期点検整備をベースにした点検整備と故障個所の発見と修復：配点 700点）。2人のうちの1人ないし2人による基礎作業競技（自動車の点検整備に必要な一般的な技能につ



準優勝の岐阜県チーム、浅野選手（左）と丹羽選手



第3位の島根県チーム、田中選手（左）と小川選手



優勝した福岡県チームに国土交通大臣杯を手渡す国交省・藤井自動車局長



福岡県チームを表彰する、日整連橋本会長

## 第20回 全日本自動車整備技能競技大会

いて審査する競技：配点 100点)。お客さまへの問診、対応、結果説明について、アドバイザーとしての確かな対応ができるかをロールプレイング形式で審査するアドバイザー競技（配点 200点）の3種目で、合計1,000点満点で競われた。

競技車両はこれまでコンパクトカーが使用されてきたが、今大会では初めて軽自動車（本田技研工業「N-BOX」）が使用され注目を集めた。軽自動車が自動車保有の4割近くを占める現状を考慮したものと考えられる。

### 特別功勞表彰

日整連は第20回全日本自動車整備技能競技大会を記念して、これまで同競技大会に熱心に取り組んだ8整備振興会に対し、自動車点検整備技術の向上に熱心に取り組んだとして特別功勞表彰を行った。

表彰されたのは、北見地方、岩手県、東京都、千葉県、栃木県、愛知県、広島県、福岡県の各整備振興会。

競技大会表彰式に先立ち、特別功勞表彰式が行われ、各整備振興会代表に日整連橋本会長よりクリスタル製の特別功勞賞記念盾が手渡された。



特別功勞表彰を受ける8整備振興会代表

## 開会式・大会式辞

### 橋本一豊大会会長：日整連会長

整備業界は、急速に進む自動車技術の高度化への対応や、整備人材の確保などの課題を抱えております。そのような状況の中でこの競技大会は整備業界における整備技術の向上を目指しており、今回の大会においても、全整備振興会から53チームの参加を頂いております。大会が整備事業の社会的必要性と、業界の教育訓練、技能錬磨の姿勢を広く社会の皆様にも広める絶好の機会であり、一人でも多くの方々が自動車



開会式、日整連橋本会長の式辞

を開く機会であり、一人でも多くの方々が自動車

## 第20回 全日本自動車整備技能競技大会

整備士の仕事に関心を持っていただくきっかけになればと願っております。

整備業界の求められていることは、確かな整備技術の元にお客様に信頼される整備サービスを提供すること。特に近年急速に普及する車輛の電子化に対しても、高度な故障診断技術を習得し、お客様の抱える問題に適確に対応して顧客満足度の高いサービスを提供することです。そのためにも本日の競技大会に出場する選手諸君にあつては整備業界における先導的な役割を果たすとともに、都道府県を代表する選手という誇りを持って、日頃培われた実力を遺憾なく発揮して正々堂々と競技されることを期待しております。(要旨)

### 開会式・来賓祝辞

#### 石井啓一国土交通大臣（板崎龍介整備課長代読）

自動車は私たちの生活や経済活動に必要な不可欠なものとなっております、自動車が高い安全・環境性能が求められる中、ハイブリッド自動車や電気自動車など、次世代自動車や被害軽減ブレーキなどの先進安全技術が導入された自動車の普及が進み、自動車技術の複雑化、高度化が急速に進展しています。

このような自動車に対応し、適切な点検・整備を行うためには高度な知識と技術が必要不可欠です。本日の競技大会に出場される選手の皆様は、全国



国土交通大臣祝辞を読み上げる板崎整備課長

各地で行われた予選大会を優秀な成績で勝ち抜かれた方々であり、その地域を代表する自動車エンジニアです。自動車整備の技術力、重要性をアピールするうえにおいても、この大会での役割は極めて大きいと言えます。本日の大会においても、日頃の研鑽の成果を十二分に発揮され、健闘されることを期待いたします。

また、自動車整備士を目指す若者が減少していますが、今後とも各選抜チームの皆様におかれましては、その卓越した知識と技術をもって、後進の指導や育成、自動車整備業界全体の技能向上に貢献されることをお願いいたします。

今大会を通じて、安全・安心なクルマ社会を築いていく上で自動車整備の重要性について、自動車のユーザーのみならず広く国民の皆様のご理解が深まる

ことを期待いたします。(要旨)

## 表彰式・講評

### 橋本昭朗競技・審査委員会副委員長：日整連理事

本日の競技は1年定期点検整備をベースにした定期点検作業と故障探求の正確性を競う実車競技、測定作業の正確性を問う基礎競技、お客様への適確な対応が求められるアドバイザー競技、以上の3形態で実施させていただきました。

まず実車競技ですが、日常的な基本作業を適切な早さで、かつ、確実にできているか。また故障設定の問題に対

しては、故障探求を正しい手順で実施しているか、外部診断器が適切に活用されているかについて審査をいたします。故障設定につきましては、現象として非常に分かりにくい部分でしたが、外部診断器を適切に用いればその現象がはっきりと分かるというものでした。それを見落としているチームがございました。外部診断器を有効活用することが、正確な故障診断をするうえで重要となっております。今後の努力を期待されるところで。

次に競技ですが、測定器の取り扱いの基本的な部分が疎かになっているというケースが見受けられました。改めて基本に立ち返るという姿勢が必要であると考えられます。

最後にアドバイザー競技ですが、今回は各競技に時間設定を設けず、選手が自由に時間配分を設定して実施していただきました。そのため、時間の使い方が難しかったのではないかと考えておりますが、これは受入時の問診におきまして実車競技での故障にかかる情報を聞き取れるか、納車説明において故障修理の結果を含めてお客様が納得のいく説明を行うことができるのかといったようなこと。それからより実際の作業に近い対応力を見させていただきました。お客様への説明は元より、整備のアドバイザーとして、お客様に分かりやすい言葉で説明する。これは非常に難しかったのではなからうかと改めて感じました。皆様におかれましては今後一層の努力をお願いしたいと思います。(要旨)



講評をする日整連、橋本競技・審査副委員長

## 優勝選手インタビュー

谷口修平選手：有限会社藤壺自動車工業（32歳・整備士となって12年目）

常岡兼次選手：西鉄エム・テック株式会社 福岡工場（27歳・整備士となって9年目）

○本日はおめでとうございます。優勝の感想をお願いします。

谷口：一から指導をしていただいた先生方が地区でもバックアップしてくれたおかげだと思います。

常岡：熱心に指導をしていただいた福岡県の振興会の方々、福岡県粕谷支部の方々も熱心に指導してくれたおかげと思っています。支えてくれた家族にも大変感謝しています。優勝した瞬間は「もしかしたらあるかな？」とは

予感はしていましたが、名前を呼ばれて現実になったときには言葉にできない喜びがありました。やり終わってからは審査員の方からも「よかった」というお褒めの言葉も頂いたし、練習の時よりもいい成果が出たのではないかと思います。



福岡県・谷口選手

○時間的にはどうでした？

谷口：今回が一番良かったのではないかと思います。

常岡：考えていた通りのペース配分ができましたので良かったと思います。最初の受け入れの間診で10分、実車競技では15分程度の時間を残して引き渡しに入ると考えていました。それがキレイに都合良くいき、最後の説明もできたかと思っています。

○今回初めて軽自動車対象ですが、普段も扱うことは多いのですか。

谷口：うちの会社は昭和の車を結構扱っているのですが、こういった新しい車は難しかったです。診断器も難しかったです。

常岡：車検等で新しい車もいっぱい入ってきますので、これからの仕事に生か

すためにも大変いい勉強になったと思います。

○地元に戻れば指導的な立場になるのですか？

常岡：会社の人たちと最新技術に関する情報が共有できたりしますので、支部の方でも何か協力できることがあれば、今後の人たちのために指導等ができればいいと思います。



○実際に競技をして印象に残った問題や難しかった問題は。

谷口：練習でやってきた問題がほとん

福岡県・常岡選手

どでしたので、特に難しかったというのはありませんでした。引き渡しの際に、ホースのバルブの役目を聞かれたりPCVの役目とフロントポジションの灯火の色を聞かれたくらいです。保安基準が入って、そのものの機能などを説明できるかといったことです。

常岡：やったことのある問題で都合良く進められたのですが、最後のエアコンに関してはこれまで見たことのない症状でした。故障診断の練習はしていたのですが、その症状については練習しておらず、勉強していたことでどうにか対応できたり、二人の連携も取れて話しているうちにコネクタ外れというのが簡単に見つかりました。一人だったら点検内容が多く、あれもこれもで混乱したと思います。谷口さんと話をしたら「コネクタが外れている」というアドバイスを受けることができてよかったと思います。

○実車競技を見ていると、車の中にいる場合と外でパソコンに向かって調べている状況が多いという印象を受けましたが。

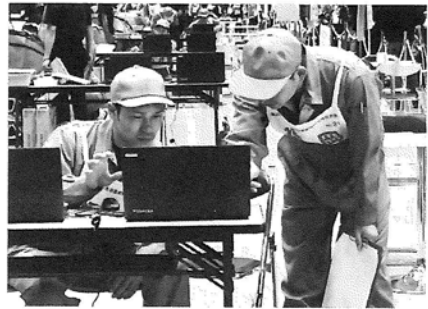
常岡：確かにほとんど車内で故障箇所を特定して、パソコンで点検内容を確認し、単体部品のところに行って点検し、不具合があるので交換するという流れなので、そのように見えるかもしれません。

谷口：診断器のデータを見て判断するというのを、日頃あまりしていない分、難しかったと思います。「どの状態が正常なのだろう」とか考えてしまいました。またいろいろなセンサーがあるので、それらの基本的な点検の仕方というもの

を知るのが大変でした。

○練習で大変だったことは。

常岡：練習でたくさん故障探求をやりました。外部診断器を仕事で使う機会が多いので、使い方等はある程度分かっていたのですが、サーキットテスターを用いての点検、断線、短絡の素早い切り分け等は自信がないときなど



実車競技中の福岡県チーム

に、「そこは電圧の測定を行って素早く切り分けした方がいい」とアドバイスもらったので、切り分けは厳しい訓練で大分上達したと思います。1時間半で8カ所の故障設定ですが、練習の時には12カ所の故障探求を行いました。時間内に全部見つけるといった厳しい練習を行いました。

○これから業界に入ってくる若い人たちにメッセージは。

谷口：向上心は大切だと思います。技術を向上させるという意欲があるといいですね。何にでも挑戦することが大事だと思います。

常岡：私も同感です。何か新しいことにチャレンジすること、向上心を持って「分からない」から「やらない」ではなく、「分からない」から「調べてやる」ということ。興味を持つところから進めて行けばいいと思います。故障探求もやっていけば面白くなってきます。そこからみんなの力があがっていけば、自動車業界も盛り上がっていくと思います。

○ペアを組んでの出場ですが、お互いへの思いというものは。

谷口：結構足を引っ張ってしまったのですが何も言わずに頑張ってくれたなと思います。僕の方が年上で経験もあるのですが、練習で自分ができないことがあってもちゃんと見てくれました。

常岡：機械的な部分が苦手な反面、外部診断器は得意と言えるので、それぞれの長所を出していけば優勝できるのではないかという思いはありました。それぞれがやりやすいようにすればきっとできるという思いです。以前19回大会で谷口さんと組んで出場したときに大分悔しい思いをしたので、また挑戦できたのが嬉しかったです。



第20回 全日本自動車整備技能競技大会



競技大会を視察する国交省・藤井自動車局長(中央)と板崎整備課長(右)。左は説明をする日整連木場専務理事



山形県チームの高橋克典選手による選手宣誓



競技説明を行う競技・審査委員長の日整連木場専務理事



実車競技中の選手と、見守り、応援する各県からの来場者



競技会場には27台の「N-BOX」が配置され、競技に使用された



診断に使用されるスキャンツール

第20回 全日本自動車整備技能競技大会



大会史上初めて競技車両に軽自動車が使用された

第20回全日本自動車整備技能競技大会成績表

満点 1000点 / 平均点 778.0点

順位	振興会名	得点	選手名	
優勝	福岡県	970	たにぐち しゅうへい	つねおか けんじ
			谷口 修平	常岡 兼次
			有限会社藤壺自動車工業	西鉄エム・テック株式会社 福岡工場
準優勝	岐阜県	951	あさの みちあき	にわ けいいち
			浅野 道昭	丹羽 慶一
			可児自動車整備協業組合	可児自動車整備協業組合
第3位	島根県	923	たなか さとし	おがわ かずよし
			田中 賢	小川 和良
			有限会社島根自動車整備工場	有限会社小川自動車
第4位	兵庫県	920	やました かずし	にしやま ともつぐ
			山下 一志	西山 郡胤
			正城自工株式会社	正城自工株式会社
第5位	栃木県	917	うえき ひろゆき	やまもと まさふみ
			植木 啓之	山本 雅史
			植木自動車工業	有限会社山本自動車販売
第6位	埼玉県	910	しらいし しんご	ながの まさふみ
			白石 信吾	永野 雅文
			トーサイアボ株式会社第一工場	トーサイアボ株式会社第一工場
第7位	秋田県	905	きもと たかふみ	たかはし ゆう
			木元 崇文	高橋 祐
			有限会社木元自動車興業	株式会社中安自動車
第8位	愛知県	888	なかむら しんご	はまぐち しんた
			中村 慎吾	濱口 慎太
			新明工業株式会社 センター前田	新明工業株式会社 センター前田

## 競技要領（抜粋）

### I. 競技種目

競技は、「実車競技」「基礎競技」「アドバイザー競技」の3形態とする。

### II. 競技内容及び競技時間

#### 1. 競技内容

##### 1) 実車競技及び基礎競技

###### (1) 実車競技

- ・1年定期点検整備（定期点検整備記録簿記入を含む）をベースにした点検整備（日常点検を含む）※
- ・故障設定（エンジン関係：4問、室内・ボデー関係：4問）

###### (2) 基礎競技

自動車の定期点検整備に必要な一般的な技能について審査する競技

##### 2) アドバイザー競技（受入／問診、納車説明）

お客さまへの問診、対応、結果説明について、アドバイザーとしての確な対応ができるかを審査するロールプレイング形式の競技

※1年定期点検整備の作業要領（範囲）は、日整連発行の「自動車定期点検整備の手引」及び自動車メーカー発行の修理書に準じるものとする。また、実車競技にて使用する定期点検整備記録簿は、日整連推奨の自家用乗用車等（自動車点検基準：別表6）の「1年定期点検整備記録簿」をベースにした競技大会専用のものを使用する。

点検項目のうち、ジャッキアップを伴う点検は整備済み（記録簿に「良」と記入されている）とすると共に設備の関係上、競技会場で実施できない点検については省略とする。（記録簿に「＝」が記入されている）

#### 【省略となる点検の一例】

排気ガスの色、低速・加速の状態等

#### 2. 競技時間

90分「実車競技」＋「基礎競技」＋「アドバイザー競技」

競技時間（90分）内であれば「アドバイザー競技（受入／問診）」、「実車競技及び基礎競技」、「アドバイザー競技（納車説明）」の時間配分を自

## 第20回 全日本自動車整備技能競技大会

由に線種が設定して良い。

### Ⅲ. 競技方式等

#### 1. 競技方法

- ・実車競技は2名で行うこととする。また、基礎競技については選手1名ないし2名で行う。
- ・アドバイザー競技は、選手の1名がお客さまとやり取り（会話）をし、もう一人の選手がその補佐を行う。また、どちらの選手がお客さまの対応をするかは選手間の任意とし、「受入／問診」と「納車説明」で選手が入れ替わってもよい。

#### 2. 得点

実車競技：700点

基礎競技：100点

アドバイザー競技：200点                      合計：1,000点

### Ⅳ. 競技車両

競技車両は、本田技研工業（株）の「N-BOX」を使用する。

### Ⅴ. 工具・測定器等

- ・手工具、機械工具及び測定器等は、全て事務局で用意する。
- ・修理書（PCを活用した電子情報）は、事務局で用意する。

### Ⅵ. 順位の決定

1. 実車競技、基礎競技及びアドバイザー競技の合計得点の高いチームを上位とする。
2. 合計得点が同得点の場合は同位とする。ただし、1位については以下の方法により決定する。
  - ① 合計得点と同じ場合は、実車競技の得点が高いチームを上位とする。
  - ② 実車競技の得点と同じ場合は、基礎競技の得点が高いチームを上位とする。
  - ③ 基礎競技の得点と同じ場合は、アドバイザー競技の得点の高いチームを上位とする。
  - ④ アドバイザー競技の得点と同じ場合は、作業態度の減点の少ないチームを上位とする。